

「学習の友」学習会

静岡県労働者学習協会静岡支部

ニュース

2025.11.14 No.158

外国人排外主義 “台頭” を考える

職場からの共生で排外主義を乗り越えよう



今回は11月号です。

最初に、特集記事「2025年参議院選での排外主義極右政党の“台頭を”考える」（進藤兵都留文科大学教員）を読み合わせし、続いて「外国人労働者との職場における『共生』とユニオン運動—集团的組織化と大幅賃上げ」（尾林哲矢首都圏青年ユニオン執行委員長インタビュー）を読み合わせしました。

進藤氏は、国民主権や基本的人権といった憲法の原則を認めない保守政党を極右政党と定義し、共通する特徴として、排外主義＝外国人排除＝排他的自国愛主義。「創憲」、伝統文化の強調、などを挙げます。参政党や日本保守党がそれです。今回の参議院選挙でなぜ、排外主義極右政党が“台頭”したかを、参政党に投票した3つの層を分析し解明し

ていきます。①積極的極右支持層（200万人程度）、②自民・維新に愛想をつかした今回は極右を止まり木とした層（400～500万人）、③無党派層や女性・若者層を含めた400万人ほどの弱い支持層、です。

次に保守的周辺層・弱い支持層が拡大した要因を3つ挙げます。①新自由主義による勤労者の生活苦の深刻化です。②排外主義極右政党の国際的な進出の影響



「琉球新報デジタル」より

次回学習会は次のとおりです。12月号を持って
お気軽にご参加ください。

日時 12月10日（水）18:30～

場所 国労小会議室

今回は第二水曜日となります。お間違いなく。



市民と野党の共闘で

排外主義極右に対抗を!!

とネット・マスメディアの悪用。③新自由主義に対抗する明確な政治構造が打ち出せず、排外主義極右政党の主張が対抗軸のように受け止められたためです。次に排外主義極右の中心層の形成について展開します。そして排外主義極右の共通点をまとめます。①左派政権への政権交代にたいする危機感。②自民党の「リベラル化」に対する危機感。③市民社会内での保守勢力の衰退への危機感。④「日本民族」など非階級的・文化的・非近代的な争点をもちだして仮想的をつくりだし、勤労者をかく乱して連帯を分断すること。最後に我々はどうすべきかをまとめます。①「市民と野党の共闘」の立場に立つ政治勢力は、弱いながらも極右政党を支持した有権者に、対話を行い、政策の一致点で共同を広げる。②排外主義批判の社会運動の展開、です。

次に尾林氏のインタビュー記事は、飲食チェーンの「まっや」高円寺店で働く外国人労働者を組織化し、賃上げ等の要求を実現させた高橋さんの実践報告です。

(本人は病気で亡くなっています) 高橋さんは、もともとは外国人に対する差別意識を持っていたそうですが、日常的な人間関係、職場の関りを通じて自らの差別意識を克服していきました。日常的な共生関係の広がり、排外主義の余地を縮小していったのだそうです。

討論では次のような意見がありました。

「ちなみに静岡では外国人労働者の状況はどうでしょうか。」「浜松はブラジルの外国人労働者が多いよ。」「静岡のローカルユニオンにはいない。」「焼津の水産関係の工場には組合員がいた。」「組合についての意識は違うのかね。」「浜松の外国人労働者の話だが、『日本の労組は生ぬるい。もっと机をたたいてやらなきゃだめだ。』こんなんじゃないかだめだと言って組合を辞めた人がいたそう。」「叱咤激励されたわけだ。」「机をたたいたらパワハラだ。労働組合の交渉は昔はやったようだが、今はそれをいけないとされたよね。」「昔は灰皿が飛んだ交渉もあった。喧嘩だよ。」「必死さ、正面から取り組んでいる姿勢が見えるわけで、そういうのを求めているのでは。たたかい方の工夫は必要だ。」「ブラジル人はネットワークがすごく、スマホでどこの会社は賃金が高いとか連絡し合って変わっていくとか。」「クリスマスパーティーは盛大に組合でもやる。組合員から要求がでる。」「日本人だと労組というと引いてしまう人も、そこらは、意識がちがうのかね。」「マスコミなどで組合についての誹謗中傷もあり、誤解もまねいているよね。」「東海林さんの講演で、『極右が狙っているのは外国人排斥の次は、労組排斥だ』と言っていた。」「完全に潰しにかかっている。」「ニューヨークの新市長になったマムダニ氏は、暴力はない

が言葉は過激だ。ああいう姿勢はわかりやすいね。」「高市氏も『働いて、働いて』など姿勢がわかるもので支持が一般的に高い。変な一生懸命さが伝わる。自民党の男性総理にはなかった。」「マムダニ氏は、最初トランプを支持した人たちになぜ支持をしたのか聴いてまわった。生活が苦しいという訴えに目を向けて、それで政策を打ち出していった。」など、話が盛り上がりました。



「ジエトロ」より

